

(大阪西北部・大阪東北部)

大阪・大坂城下町跡

おおさかじょうかまち

(一六一八)に生魚商の一部が上魚屋町(現安土町)に移り、また、同八年に塩干魚商が津村の葭島を開発し新鞆町・新天満町を造ったため、新鞆町と区別して「本鞆町」と称するようになった。

一〇〇六一二三次調査

- 1 所在地 大阪市中央区伏見町一丁目
- 2 調査期間 一 二〇〇六年(平成18)五月～六月、二 二〇〇六年八月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 黒田慶一
- 5 遺跡の種類 城下町跡

- 6 遺跡の年代 一 豊臣後期(一五九八～一六一五年)～元和八年(一六二三)、二 一七世紀中葉

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、三越百貨店本館跡地(〇J〇六一三次)とその東側の同店駐車場跡地(〇J〇六一四次)で、江戸時代の「本鞆町」にあたる。豊臣秀吉は船場開発時(慶長三年(一五九八))に魚市場(鞆町)を当地に置いた。その後、元和四年(1718)に生魚商の一部が上魚屋町(現安土町)に移り、また、新鞆町と区別して「本鞆町」と称するようになった。

木簡は、SK一一九(長さ一・八m幅一・三m深さ〇・四m)から一点、SK一三一(長径一・〇m短径一・三m深さ〇・五m)から一点、SK一五三(長径一・〇m短径一・五m深さ〇・九m)から二点、SK一六四(長径一・三m以上、短径一・〇m深さ〇・八m)から六点、SK一七九(長さ一・三m幅一・一m深さ〇・四m)から一点、SK一二八(長さ一・五m幅一・二m深さ〇・七m)から一点、大土坑(東西八・〇m南北八・〇m深さ一・〇m)から七点、計一九点出土した。このうち大土坑の埋土は上・中・下三層に分けられ、(13)～(16)は下層、(17)は中層、(18)(19)は上層から出土した。

二〇〇六一四次調査

建設予定建物の基礎が浅い)とから、調査は一七世紀中葉の生活面までにとどけた。

木簡は、SKO-1(東西三・五m以上、南北五・〇m以上、深さ〇・八mのコミ穴)から一点出土した。共伴遺物として肥前陶器の砂目積み溝縁皿、ミニチュアの土釜、棒状の木製人形頭部、馬脚と思われる木製操り人形などがある。

8 木簡の釈文・内容

一 OJ-O六一三次調査

SK-1九

- (1) 「(花押)(花押)(花押)
(花押)(花押)(花押)」
- 「○東□□□」
- SK-1四一
- (2) 「□□□屋久左衛門尉」
- 375×58×9 061
- SK-1五三
- (3) 「▽はまち卅五
□やく九つ 入合」
- 「▽□□彦左衛門」
- 133×28×9 032
- (11) あち百五入
- (113)×18×4.5 059
- (4) •「▽百入大た□」
•「▽□ □」
- 142×23×4.5 033
- (5) •「▽めちか五十入」
•「▽久右衛門」
- 129×21×5 032
- (6) •「▽」郎兵衛 □□
五連四□
- (128)×22×3.5 033
- (7) 「上 百五十入
- (8) 「▽(田印) 源次兵衛殿」
- 203×18×1.5 033
- (9) •「▽大かます□□□
小かます□□□^{〔百カ〕}」
- 88×30×2 032
- (10) たこ三十五□入
- (116)×20×2 059

9

表面の「わ」は変体仮名で、「王」の字形。河内国茨田郡(現寝屋川市)の「仁和寺」在住の甚左衛門が送った品物に付いて来た荷札と考えられる。

化財協会『葦火』一二五、二〇〇六年)

丸山真史・松井章・黒田慶一「大坂城下町跡（本穀町地区）出土の動物遺存体の分析」（財大阪市文化財協会『大阪歴史博物館研究紀要』六、二〇〇七年）



二(1)



-(8)



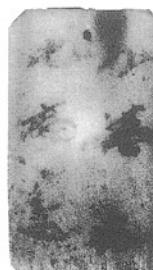
-(18)



-(6)



（黒田慶一）



-(1)



-(5)



-(14)表



-(9)表



-(19)表



-(17)表



-(13)



-(16)表



-(3)



-(10)



-(11)

（いずれも赤外線画像）